

平成27年度

伏見区区民活動支援事業

活動事例集

～区民が主役のまちづくり～



伏見区役所・深草支所・醍醐支所



京都市
CITY OF KYOTO



～はじめに～

「伏見区区民活動支援事業活動事例集」は、同事業の採択団体による「区民が主役のまちづくり活動」を、より多くの皆様に知っていただくことを目的として、また、団体の活動報告を兼ねて作成しました。

「自分たちも伏見区内で何か活動ができないか」とお考えの皆様の参考になれば幸いです。

<目次>

1. 伏見区区民活動支援事業概要 P1
 2. 冒頭インタビュー P3～P10

団体名	事業名	掲載頁
中書島繁栄会	伏見中書島「弁天祭」の復活事業	3, 4
アジア・アフリカとびっきり映画祭実行委員会	向島ニュータウン多文化交流	5, 6
深草古絵図プロジェクト	古絵図・古地図で再発見！過去・現在・未来	7, 8
だいきヤンドルプロジェクト	地域の人と人をつなぐだいきヤンドル	9, 10

3. 採択団体の取組紹介 P11～P25

(1) 一般枠

団体名	事業名	掲載頁
京都ピアノとうたの音楽ひろば	みんなのうたごえカフェ	11
蔵ジャズフェスティバル	蔵ジャズフェスティバル	11
特定非営利活動法人伏見クラブ	おおぞら少年少女ラグビーチームラグビーを通じて広い視野と心も育てたい。使用済用具をアジアの途上国へ送ろう！	12
向島駅前まちづくり協議会	向島駅前まちづくり憲章推進事業 向島ニュータウンの再生と健康福祉のまちづくり推進事業	12
伏見区砂川学区自治連合会	さと・まちコラボ（砂川・京北学区姉妹交流事業定着プロジェクト）	13
伏見・お城まつり実行委員会	第2回 伏見・お城まつり	13
FUSHIMI 留学生サポートクラブ	留学生ガイド育成事業	14
特定非営利活動法人伏見板橋よいまちづくり	みんなで創ろう「伏見ふれあい未来館」	14

団体名	事業名	掲載頁
伏見区における地域と商店街の連携推進支援事業実行委員会	伏見区における地域と商店街の連携推進支援事業	15
久我自治連合会	災害時における無線連絡体制の構築	15
桃山プロジェクト	みどりのまちづくりプロジェクト	16
i . m . a	おやこでアートを楽しもう	16
「黄華堂」再発見プロジェクト実行委員会	日本初、天体観望会の地「黄華堂」再発見プロジェクト	17
特定非営利活動法人ちいろば	あなたの居場所 「ス カサ」	17
墨染活性委員会	墨染地域活性化活動	18
川魚文化再興プロジェクトチーム	川魚食文化の再興を通じた新しい飲食文化の提案	18
父活プロジェクト	まちのきょういく委員会	19

(2) 小規模枠

団体名	事業名	掲載頁
コミュニティプラザ深草図書館運営委員会	子どものこころを育む読書活動の推進	20
龍大・伏見環境創造プロジェクトチーム	伏見環境創造プロジェクト	20
お話の会 すずらん倶楽部	高齢者施設を訪問し、朗読、読み聞かせ等を通して、笑顔のふれあい活動	21
西寺町中部中町内会	災害緊急避難サポート隊活動	21
五感でごはん実行委員会	五感でごはん ～親子で体験 食育プロジェクト～	22
龍谷大学 ODEN	ヨシを活用して、伏見の特産品を創ろう！	22
淀本町商店街イベント実行委員会	淀本町商店街 セタまつり	23
伏見楽舎	親子で見えて知って楽しもう、伏見のヨシ	23
伏見ロコモ予防クラブ	地域力で行うロコモ予防	24
生きいきお出かけ応援プロジェクト	生きいきお出かけ応援プロジェクト	24
特定非営利活動法人深草・龍谷町家コミュニティ	町家 de 交龍	25
醍醐石田団地自治会	地域の作品展～趣味を通じて仲間づくり～	25

※ 各枠ごとに申請順に掲載しています（インタビュー除く）

1. 伏見区区民活動支援事業概要

この事業は、「伏見区基本計画～皆でつくる すむまち伏見～」の推進に当たり、区民の皆さんが、自分たちの地域を暮らしやすい魅力あふれるまちにしていくために、区民主体で取り組まれるまちづくり活動経費の一部を支援するものです。

採択事業は、「伏見区区民活動支援事業審査会」委員による審査を経て、伏見区長が決定します。

(1) 補助金上限額

一般枠 上限60万円（必要事業経費の2分の1以内）

小規模枠 上限10万円（必要事業経費の4分の3以内）

(2) 申請・採択状況

	申請件数金額	採択件数金額
一般枠	28事業（11,644千円）	19事業（7,033千円）
小規模枠	25事業（2,408千円）	14事業（1,360千円）
合計	53事業（14,052千円）	33事業（8,393千円）

参考：過去の採択状況

	申請件数金額	採択件数金額
平成24年度	26事業（7,483千円）	19事業（4,946千円）
平成25年度	39事業（10,504千円）	33事業（8,400千円）
平成26年度	40事業（10,309千円）	33事業（8,142千円）

「絆づくり・プロジェクト」でも、 区民が主役のまちづくり活動を応援しています。

区・支所では、地域のまちづくりに関心をお持ちの皆さんが出会い、交流し、学び合うことのできる場づくりの事業「絆づくり・プロジェクト」を実施しています。

参加無料、見学自由です。お気軽にご参加ください。

1 伏見をさかになにざっくばらん (愛称 ふしざく)

伏見が大好きな皆さんのための、楽しいまちづくりカフェを毎月開催中！

日時 毎月最終土曜日（予定、変更有り）13時～16時

場所 伏見区総合庁舎1階ホール ほか

- 内容
- ①伏見について「ざっくばらん」におしゃべりしましょう。キッズスペースもあります。
 - ②まちづくりチームの立ち上げや活動をサポート！補助金制度もあります。
 - ③まちづくり活動についての相談や、情報交換、活動PRができます。



2 深草まるごとつながりネットワーク (愛称 深まるねっと)

まちづくりの出会いと学びの場、「2030 FUKAKUSA」のまちづくりを自分たちで！

平成28年度のテーマ

「深草のみどりの保全整備から再生へ」

「2030FUKAKUSA」のビジョンマップを元にまちづくりを自分たちの手で形にします。

今年度は、深草トレイル大岩山展望所コースに在る大岩神社周辺の整備を行いながら、再生に向けた可能性を追求し、楽しくアクティブに活動します。

（開催日時等は未定）



3 おとなだいで塾

まちづくりに取り組む人たちが、専門家から学ぶ塾

日時 6月～11月の毎月第1土曜日（予定）

場所 醍醐総合庁舎3階会議室

- 内容
- ①まちづくりの専門家からまちづくりの知識や問題解決の手法について学びます。
 - ②醍醐いきいき市民活動センターや京都市まちづくりアドバイザーが塾生のまちづくり活動を支援します。



2. 冒頭インタビュー

伏見中書島「弁天祭」の復活事業 <中書島繁栄会>

連絡先 075-622-8758（伏見観光協会）

伏見らしい歴史と文化を次世代につないでいくために立ち上げられた「伏見中書島『辨天祭』の復活事業実行委員会」は、江戸時代からの古儀に則った辨天祭の復活に取り組んでいます。本取材では、実行委員長の澤田勝也さんと事務局の北澤雅彦さんにお話を聞きました。



実行委員長の澤田さん（右）と事務局の北澤さん（左）



かがり火が川面に美しく揺らめく中進む舟

活動インタビュー

◆辨天祭の盛衰

江戸時代に港町として栄えた伏見中書島では、地域繁栄を願って辨天祭が行われてきました。「とんどん船」と呼ばれる護摩を焚いた三十石船や舟渡御を行う神輿舟、辨天囃子を奏でる囃子舟、芸妓を乗せた屋形船を宇治川に浮かべて花火が上がる中、盛大に祭りが行われた辨天祭は、藤森祭や宇治のあがた祭と並ぶ「洛南三奇祭」として知られていました。

戦後宇治川に舟を出すことができなくなった後も、辨天祭は形を変えて地域の祭りとして開催されました。「日中に獅子が舞い、神輿が担がれ、夜には宇治川派流兩岸にかがり火が焚かれる中、船上で辨天囃子が奏でられ、夜店が並んでとてもにぎやかだった」と澤田さんと北澤さんは幼少の頃に思いを馳せます。

しかし、人手不足などの理由から運営が難しくなり、かがり火や舟渡御、辨天囃子は十数年前に中断してしまいました。以降、長建寺境内での護摩焚きのみが辨天祭として続けられてきたそうです。

◆辨天祭の復活

平成26年、古儀に則った辨天祭を地域住民の手で復活させたいと思う有志が集まり、長建寺住職に相談しながら、途絶えていたかがり火を復活させました。祭道具などを自分で調達して最低限の道具を揃え、有志でお金を出し合い、寄附を募っての開催でした。その後、祭りの継続のためには運営資金やより多くの人への声かけが必要だと感じたため、伏見区区民活動支援事業に応募しました。

◆祭りに携わる人の輪が広がった

「伏見中書島『辨天祭』の復活事業」を進めるにあたり、中書島の東柳町や西柳町を中心に、近隣町内に声をかけて実行委員会を立ち上げました。実行委員は祭りの運営企画、薪などの備品調達を始め祭り全体の調整に携わります。

祭りの実施には実行委員だけでなく、様々な人の協力がありました。例えば、かがり火を焚くにもコツがあります。祭りの復活を機に、30年ほど前に祭りに携わった人達から火焚きのやり方を教えてもらうことができました。また、辨天祭当日、宇治川派流沿いの道路に約30のかがり火を焚くにあたり、その火の番を務める地域の人々や、南浜消防団の協力のおかげで、心強く本番を迎えられたそうです。



辨天祭の復活に向けた準備会議



辨天祭の歴史を見物客に伝えます

◆かがり火が美しく揺らめく辨天祭の開催

準備を整え、いよいよ辨天祭を開催するその直前に台風が接近。悪天候が予想される状況で「今年は無理かな」と中止の覚悟もしたそうです。辨天祭の復活2年目にして台風の影響で中止するかどうかという判断を迫られるのは心苦しかったことでしょう。

しかし、平成27年7月25日当日は晴れ。ホッと胸をなでおろす実行委員の気持ちも晴れ渡り、朝から汗だくになりながら祭りの運営に力を注ぎました。

夕刻になり辨天祭が始まりました。船は日が明るいうちに出航し、乗客は伏見らしい酒蔵の風景を楽しみました。そして夕闇が訪れ、川沿いに並ぶかがり火が揺らめく中を舟我進むと、乗客はその幽玄の世界に酔いしれました。

その舞台裏では、舟にいるスタッフと地上にいるスタッフが携帯電話で頻りに連絡を取り合っていました。空が暗くなり、かがり火が最も美しく映える時に舟が通るように、舟の出航時刻や運航速度を調整するためです。こうした演出は大成功で、舟に乗った乗客は辨天祭の美しさに感動し、沿道で見物する人々も幻想的な祭りの風景を楽しみました。

◆伏見の子どもたちに受け継がれる祭りへ

今回の辨天祭の復活はあくまで「小さな一歩」であり、古儀に則った辨天祭に少しでも近づくことを目指しています。その一つとして、伏見の子どもたちに伝統行事である辨天囃子を受け継げるような仕組みを考えています。「子どものうちに体験したら、祭りが自分ごとになり、彼らが大人になった時に自分の子どもにも参加して欲しいと思うのではないか」と澤田さんは語ります。

古儀に則った辨天祭を復活させるには、人も資金もまだまだ足りないとはいえ、区民活動支援事業によって資金面での支援を得られ、人とのつながりが増えるなどして活動にはずみがついたそうです。来年以降も祭りが伏見だけでなく京都、全国へと知られるように、次世代へつなげていけるように辨天祭の復活の取組は続きます。

2. 冒頭インタビュー

向島ニュータウン多文化交流

《アジア・アフリカとびっさり映画祭実行委員会》

連絡先 電話 0774-25-2630 メール fro@po.kbu.ac.jp

向島ニュータウンは、在日外国人や中国帰国者、また留学生が多数住んでいる地域です。様々な文化的背景を持つ者同士が、もっと交流してお互いを知って暮らしていくことを目的に、映画祭を始め関連ワークショップなどの文化交流事業が実施されました。



向島地域まるごと成人式



立命館宇治高校の生徒によるタイ・ラオスの
工芸品の展示・販売

活動インタビュー

◆「向島地域まるごと成人式」～留学生が餅つきや着物着付けを体験

「それっ」「もっと腰入れて」「なかなかうまいな」掛け声がかかる中で杵をふるうのは、向島学生センターに住む留学生たち。

第7回アジア・アフリカとびっさり映画祭では、映画上映の後の交流企画として、「向島地域まるごと成人式」での餅つきの体験や日本酒の試飲、高校生による一村一品商品の販売など魅力的な企画が満載。地域の方に着物を着せてもらった留学生たちは、初めての餅つきを体験して、きなこや醤油味の餅を味わいました。

スリランカとフィリピンから来ている留学生は「初めての体験、とても面白い。」「杵が重かった～。」「でも20回以上ついてたわね。私は5回がやっと。」などと楽しそう。餅にも舌鼓をうち、「私の国スリランカでもきなこに似たような粉を食べます。」と教えてくれました。



餅つき体験

◆多文化共生を目指して

取り組みの始まりは7年前にさかのぼります。ニュータウンに隣接した宇治市槇島地区にある京都文教大学の学生が中心となり、フィールドワークを通じて世界で学んできたことを地域に還元したい、という思いから、異文化理解を進めることを目指して映画上映会を始めました。

これまで宇治の生涯学習センターや大学を会場に、毎回テーマを設定し、映画上映とシンポジウムやワークショップを企画してきました。2013年度からニュータウンの地域住民や京都市住宅供給公社も実行委員に加わり、「多文化共生のまちづくり」、「映画と食をととした交流」といったテーマを掲げて、地域に根ざした映画祭を目指してきました。

◆意外と難しい「交流」

実行委員会の代表は総合社会学部教授の杉本先生。「交流って実は難しいんですよ。」と話されます。これまでも映画上映の間や後に交流企画を設け、その時は楽しく交流できましたが、その場かぎりで終わってしまい、地域の日常生活の中では言葉の壁等もあり、なかなか交流が進みません。

そこで、今回は地域住民・在日外国人・留学生・大学生の「交流」そのものをテーマとして、どうやったら深い交流が実現するか模索しました。

まず工夫したのは、料理を通じて交流を進めるインターナショナルキッチンを事前に3回開催したことです。手巻きすしパーティーに始まり、留学生のウェルカムパーティーではたこ焼きやお好み焼きを作り、そしてクリスマスパーティでは中国人留学生から料理を教えてもらいました。回を重ねるごとに顔見知りが増え、参加者の中から実行委員になる留学生も現れたそうです。

また、会場も留学生と地域住民双方が参加しやすいように、ニュータウンの中にある留学生の住居、向島学生センターの施設であるセミナーハウスとしました。

そして、なんといっても冒頭に紹介した餅つきや成人式などの日本文化を体験する企画。おかげで留学生は約40名の参加、会場は常時100人ほどで埋まりました。

約20名の実行委員会学生グループを率いるリーダー、総合社会学部4回生の徳田さんは「キッチンで知り合い同士が増えたことで、映画会当日も地域の人と留学生とがしゃべる姿が見られて感動した。」と話されます。



インターナショナルキッチン



留学生による上映映画の解説

◆学生センターとのコラボレーション

会場を管理し、実行委員会の副代表でもある京都市住宅供給公社の沖野さんによると「この数年、京都文教大学との協力がだいぶ進みました。公社の交流事業である餅つきも、今回は単独のイベントでなく、着物を着て、成人式を地域の方が祝ってくれるような雰囲気があったから、留学生たちがこんなに喜んでくれたと思います。」大学や地域などが一緒になって企画する良さが伝わってきます。

◆支援事業への期待、これからの向島ニュータウン

杉本先生は「成人式では留学生の挨拶に地域の人から大きな拍手が送られ、地域の暖かさを実感しました。今後、このイベントの主体が地域住民になっていくと理想的です。」と話されます。そのためには、定着するまでやり続ける継続性が重要です。「映画祭の開催には上映権の獲得など資金が必要です。支援事業の助成金のおかげで、留学生の無料招待もできました。できれば地域の映画祭として根付くまで、継続して支援していただきたいです。」とのこと。多文化共生を特徴とする向島ニュータウンだからこそできる映画祭として、その意義を感じているそうです。

地域も公社も大学も留学生も、多様な主体が協力するからこそ深い交流が実現する、そんな向島ニュータウンの将来が楽しみです。

2. 冒頭インタビュー

古絵図・古地図で再発見！過去・現在・未来

《深草古絵図プロジェクト》

連絡先 090-2355-5486(事務局：杉田)

深草古絵図プロジェクトは、深草地域の歴史的・文化的資源を各時代の古絵図や地図・資料等を素材に、見て、語り合う場を作り、現地ウォーキングを実施して、地域の貴重な宝と魅力を身近に実感して関心を深めると共に、多世代間交流の拡大を図っています。今年度は、「街道」にスポットを当て、夏に「藤森神社と深草の歴史」講演と境内遺構の説明会を、秋には「大津街道」「伏見街道」の展示会と地域の案内者によるウォーキングを実施しました。多くの方に参加して頂き、また地域の各関係者の暖かい協力を頂きました。



ウォーキング「大津街道」地域のガイドさんによる話を聞く(H27.10.24)



プロジェクトのメンバー
(右より4人目：代表・杉田さん/5人目：副代表・渋谷さん)

活動インタビュー

◆同じ町内のウォーキング仲間が集まって…

ももとは、月に一回程度交流も兼ねて集まるウォーキング仲間の集まりでした。いろいろな所を歩くうちに「深草地域には歴史的遺構がたくさん残っているけど、よく知らんね」「みんなで調べようか？」という思いが始まったきっかけです。この事業は、メンバーが持っている古絵図・古地図や資料に歴史資料館・図書館等で調べた文献、各方面の方から提供された資料を持ち寄り、さらに現地を確認し写真撮影も行い、手作りで展開しています。

◆子どもからお年寄りまでが集い、語り合えるように…

古絵図・古地図を素材として使用するのは、「子どもから大人まで多世代が集い、みんなで気楽にわいわい語り合いながら楽しめるし、専門書よりも入りやすいから」だそうです。平成26年度から現在まで計10回、展示会や語り合う会・講演会・街道を歩くウォーキング等を行っています。例えば平成26年2月23日～3月6日迄の期間開催した『江戸時代の深草・藤森』と題された古絵図・資料等の展示会では、来場者が160名を超える等、毎回「満員御礼」状態とのこと。できるだけ「どんな方でも立ち寄りやすいように」と、深草商店街にある『深草暮らしの交流サロン・ふかふか家』や『藤森神社』『深草支所』等地域の人にとって身近で行きやすい会場を使用する心遣いも、人気の秘密かもしれません。また展示会を開けば、「家にこんな資料あるよ」「写真持ってきたで」と声をかけられ、地域の人や団体が資料提供に協力して下さるようです。

◆手探り状態だったが、多くの方の協力で支えられて

最初は、「チラシの作り方」「広報の仕方」「展示の貼り出し方」等試行錯誤の連続だったと言います。しかし区民活動支援事業の助成を受けることで、資金面でのサポートや区民だよりへの広報協力だけでなく、困ったことがあれば随時、区の担当者が相談に乗ってくれ、「とても励みになったし、支援制度があることで市民の‘何かやってみたいな’という思いを後押ししてもらえる。今後も続けてほしい」と代表の杉田さんは話します。資料集めと資料づくりもまたひと苦労だそうです。副代表の渋谷さんの話では「資料を借りたり、ウォーキングで立ち寄りお寺や民家に事前にお願いに回るのはなかなか大変ですが、みなさん快く対応して下さるので、ありがたいですね。自分たちの力で集めて手作りするのが、こだわりです」とのこと。



語り合おう会「100年前の深草・藤森」(H26. 8. 30)



講演会「藤森神社と深草の歴史」(H27. 7. 25)

◆広がる輪とつながり

伏見区のホームページに掲載されることで、思いがけない‘つながり’もあったそうです。『荒城の月』で有名な岡城がある大分県竹田市の『岡の母・虎姫の会』という団体から、藤森学区の『内膳町』にいたとされる中川秀成（*豊臣秀吉の時代）の奥方・虎姫について教えてほしいと手紙が届いた時のこと。手紙に同封されたパンフレットを元に、図書館や資料館等をあちこち回り、古い文献を読み込んだり、知人にも聞いて調べていくうちに、京都市内の新京極にあるお寺に虎姫を描いた貴重な掛け軸が保管されていることが分かったそうです。御住職にお話を伺いながら、虎姫の掛け軸と対面した時には「すごく感動しました！」と杉田さん。

喜びを感じることは他にもあり、深草商店街のイベント時や龍谷大学町家キャンパスから展示を依頼されたり、地域の活動団体との連携等活動の輪が広がっていることです。参加者には90代の方もいて、毎度参加を心待ちにして下さることや、地元をよく知る地域の方にガイドして頂くことで、さらに参加者の地域への関心や理解が深まっていると実感することも‘やり甲斐’につながっています。

◆地域の歴史や資料を『みんなの宝』に

今後の展望については、こう語ります。メンバーで苦労しながらも集め、手作りしてきた資料や積み重ねてきたノウハウを「地域の財産」として何らかの形で残していけないか、ということ。また、価値に気づかれず捨てられてしまう昔の街並みや情景を写した古写真や資料等についても提供を呼びかけ、きちんと保管していけたらと考えているようです。

平成28年度は大和街道を歩く予定の他、まだまだ知り得ていない地域の歴史や深草地域ならではの‘魅力’を掘り起こすこと、そして地域の成り立ちを知って頂くために、子どもたち向けのプログラムづくりにも挑戦してみたいと意気込みを語ってくれました。

2. 冒頭インタビュー

地域の人と人をつなぐだごキャンドル〈だごキャンドルプロジェクト〉

連絡先 メール daigocandle@gmail.com

◆醍醐地域の市民のつながりを作るために、老若男女を超えて多様な人々が出会い、共に参加できるキャンドルナイトイベント。

2015年3月、醍醐地域のくりのみ保育園横の広場に、2000個のろうそくが灯されました。ろうそくは、人と人が思いを馳せ、つながるイメージの地上絵を描く形で配置され、早春の醍醐の夜を暖かく照らしました。これは「ピースキャンドル」というキャンドルナイトイベントです。醍醐地域ではこの時初めて行われたものであったにもかかわらず、当日は、数百名を超える老若男女が、キャンドルに明かりを灯す取り組みに参加されました。事前の準備も含めると、おおよそ3,000人近い市民の方がなんらか関わられた大イベントとなりました。

初回は、主催者の手弁当で行われていたものの、さらに多くの地域の方が参加できるよう、また、継続した取り組みとなることを目指して、2015年度は伏見区区民提案支援事業として助成を受けて取り組まれました。

このイベントは、こういった動機で、何を目的に企画されたのでしょうか。このイベントの実行メンバーの一人である高向^{たかむき}さんに取材しました。



活動インタビュー

◆醍醐につながりを作っていきたい！「醍醐キャンドル」

高向さんは幼い頃からずっと醍醐育ち。大学進学や就職を期に、醍醐で過ごす時間がだんだん短くなっていき、地元の知人とも疎遠になっていきました。ある時、高向さんは、大阪でまちづくりイベントに関わる仕事をしていて、地域の人々のつながりの大切さを実感したそうです。

「僕は仕事で、いろんな人に、地域で知り合いを作ることがどんな風に大切かしゃべってきたし、つながりづくりのイベントも企画してきたんですね。でも、当の自分を振り返

ってみた時、自分の住む地域は、家の隣にどんな人が住んでいるかもわからないと、気づいたんです。」

地域で人々のつながりが薄い状況は、一見自由で気楽かもしれません。しかし、実は危険性も小さくないと高向さんは語ります。例えば、震災のような大きな災害発生時に地域のつながりがないととっさに助け合う事ができないことはよく知られています。あるいは日常的にも、ご近所トラブルの原因になってしまうこともあるでしょう。高向さんは、そういう状況を変えるために、地域の中でつながりを自ら作っていきたいと考えたそうです。

そんなある日、醍醐いきいき市民活動センターが主催する、交流会があることを知り、参加されました。それをきっかけに、地域のいろんな人たちと知り合うことができました。高向さんは、そうして色んな人と思いを語り合う中で思いが一致し、キャンドルナイトイベントを実施することにしたのだそうです。



とはいえ、高向さんは「別にキャンドルイベントである必要はないと思っています」と考えているそうです。「大事なのはイベント当日までの準備で、地域の色んな人達と知り合えることです。それができるなら、キャンドルイベントでなくてもいいです」というように、その時々メンバーがやりたいと思えることに柔軟に変えてゆけばいいと語ります。

この活動は、これからどんな出会いの機会を生み出し、どう変わっていくのでしょうか。高向さんの活動に、これからも注目したいところです。

3. 採択団体の取組紹介 (1) 一般枠

みんなのうたごえカフェ <京都ピアノとうたの音楽ひろば>

連絡先 電話 080-9161-1580 (担当: 上平) メール chopinpetite@gmail.com

伏見地域のシニア世代の皆さんや、京都に避難してきた東北・関東の方々などが、月2回(第2木曜日、第4月曜日15時~17時)、伏見区両替町4丁目の「みんなのカフェ」に集まり、童謡や歌謡曲などをみんなで楽しく歌っています。昨年度の月1回から本年度からは月2回開催とし、毎回多くのお客様方に御好評をいただいております。防災の日がある9月には、「地震から身を守るために(伏見消防署)」「今一度地震対策の再点検を(京都市消防局)」のパンフを参加者に配布し防災意識を高めていただく取組も行いました。



ただ音楽を楽しむだけではなく、ここに来ればいつも会える人がいるという安心感、共に集い語り笑い歌い合い、新たな仲間づくりを構築する交流の場となっていることが、当該事業の参加者増に繋がった要因の一つだと認識しています。



蔵ジャズフェスティバル <蔵ジャズフェスティバル実行委員会>

連絡先 メール kurajazzfest@gmail.com

「蔵ジャズフェスティバル」は、伏見でしかできない、複合的音楽イベントとして、地域経済・文化振興・観光などの発展を目指します。

「日本酒」や「坂本龍馬」に代表される歴史の街の他に「音楽」という新たな切り口を伏見区に作ることで、それまで伏見を訪れていた層とはまた違った人達に伏見を訪れる目的・きっかけを作ります。そして、伏見への愛着の醸成、街のにぎわいを創出し、伏見区のイメージアップや、人の流入を増やすことで、交通機関利用の増加や、商店街での物販、飲食の増加などにつなげます。

第4回蔵ジャズフェスティバルは2016年3月19日に開催します。



第3回蔵ジャズフェスティバルは6会場で開催し、朝から晩まで一日中界隈にジャズの音色が溢れ沢山のお客様で賑わいました。今期はプレイベントも積極的に行い、より細やかに蔵ジャズのPR活動を行い知名度の向上に繋がったのではないかと思います。



おおぞら少年少女ラグビーチーム

ラグビーを通じて広い視野と心も育てたい。使用済用具をアジアの途上国へ送ろう！

《特定非営利活動法人伏見クラブ》

連絡先 電話 075-757-7764 メール npo.fushimi@gmail.com

伏見工業高等学校ラグビー部と協力し、年に一度、使用済用具を途上国へ送ります。「小学生時代に学ぶべきこと」。ゴミをごみ箱へ捨てる前に知ってほしい現実があります。日本は世界で一番ゴミを燃やし、資源を灰化させています。地域の小さな活動ですが、少しでも子どもたちがリサイクルや資源の大切さを知り、行動を起こして欲しいと思います。社会がグローバル化、多様化する中、世界的な視野と日本の恵まれた環境を知って、将来世界に貢献できる人材になって欲しいと願っています。この国の子どもたちが捨ててしまうモノでも、大喜びする子どもたちがいるのです。



当事業を通じて、子どもたちは少しずつ、モノを大切にしようという気持ちになります。大人が率先してその見本となる事が大切だと、私たち自身も勉強になりました。



向島駅前まちづくり憲章推進事業

向島ニュータウンの再生と健康福祉のまちづくり推進事業

《向島駅前まちづくり協議会》

連絡先 電話 075-623-0939 携帯 080-5326-4841 メール fw5525@nifty.com

2006年に「向島駅前まちづくり憲章」を定め、健康福祉のまちづくりを基本理念としてまちづくりを推進してきました。本年度は、ニュータウンの再生を掲げ、交流の場の拡大、健康相談の充実、ごみ減量推進などをメインテーマに第9回「秋の祭典」を開催し、所期の目的を達成することができました。引き続き、ニュータウン再生に向けて行政と協力、協働のまちづくりを目指して取り組んでいきます。



「秋の祭典」ポスターをニュータウン全域に掲示し、来場者の拡大に繋がりました。健康相談コーナーを延べ518名が利用されました。服薬・介護相談に繋がるように工夫したいと思います。



3. 採択団体の取組紹介 (1) 一般枠

さと・まちコラボ(砂川・京北学区姉妹交流事業)定着プロジェクト 《伏見区砂川学区自治連合会》

連絡先 電話 075-643-2324 (土田)

山間部と都市部の住民が、小地域単位で交流を続けることで、両地域の良さを活かしあうことが、「さと・まちコラボ」の目的です。昨年度から、京北地域と砂川学区が、小学校同士の交流をきっかけに取り組みました。6月24日に京北で女性会同士の交流、7月13日に龍谷大学で京北の人も交えてシンポジウムを開催、7月30日に小学生と地域住民が消防学校で交流、10月18日に藤森神社で深草ふれあいプラザに京北から出店、10月21日、多世代交流会に京北の婦人部が参加、と姉妹交流が定着しつつあります。



3月に「地域ぐるみ交流宣言」を行って気運を盛り上げ、相互の地域の活性化につなげたいと考えています。



第2回伏見・お城まつり 《伏見・お城まつり実行委員会》

連絡先 電話 090-6327-0773 (片山)

11月1日、伏見のシンボル・伏見桃山城を会場に、かつての伏見城や城下町・伏見の歴史に光を当て、伏見のまちを元気にするために「伏見・お城まつり2015」を開催しました。

当日は、天守閣1階フロア(一部)を公開、幻の伏見城(指月伏見城)の発掘成果の展示、「天守閣からの絶景」空撮動画の放映、初登場の伏見桃山城ゆるキャラのほか、演劇や音楽の多彩なショー、子供向けの体験型イベント、食品や手作品などの販売を行いました。



家族連れなど約8千名が来られました。アンケートでは、「楽しかった」「また来たい」「伏見桃山城を補修して天守閣に登れるようにしてほしい」との意見が多く寄せられました。



留学生ガイド育成事業

《FUSHIMI 留学生サポートクラブ》

連絡先 電話 075-777-7713

私たちは主に歴史ある町「伏見」で活動しております。留学生が伏見に来ているのに、伏見の歴史・文化に触れる機会が少ない。これでは留学生にとってあまりにもったいないのではないかと、という思いで立ち上がりました。

事業内容としては、留学生に伏見の歴史・文化に触れてもらい、それを彼らの母国語でYouTubeなどで発信してもらいます。さらに他の外国人観光客に対する、ボランティアガイドを行ってもらうことで、伏見に滞在する留学生の積極的な地域参画を目的としています。



実際に伏見の歴史ある商店街を留学生と共に取材し、各店舗の魅力を母国語で話す動画を作成しました！商店街のみなさんも留学生から新しい刺激を受けたと、大絶賛！！



みんなで創ろう「伏見ふれあい未来館」

《特定非営利活動法人伏見板橋よいまちづくり》

連絡先 電話 075-611-0630 メール koyamajozo@iris.eonet.ne.jp

伏見中学校、伏見板橋小学校及び板橋幼稚園に囲まれた伏見板橋児童館の2階、3階（旧伏見青少年活動センター）に関して、人々が世代を超えて集い、つながり、子どもたちの未来を育む場「伏見ふれあい未来館」を新たに創設するため、これまでの3年間の募金活動を含め様々な活動を経てようやく第1期工事の目途が立ちました。

施設を安全に安心して活用するための補強工事等に多くの費用が必要となることから、不足する部分を「できることは自分たちの手で！」をスローガンに自分たちで内装工事等を行いました。



まだまだ事業は始まったばかりなので、これからも地域で丸となって頑張っていきたい。



3. 採択団体の取組紹介 (1) 一般枠

伏見区における地域と商店街の連携推進支援事業

《伏見区における地域と商店街の連携推進支援事業実行委員会》

連絡先 電話 075-603-1287 (事務局 伏見区社協 担当: 桐澤)

伏見区内の4つの商店街やショッピングセンターを中心に、商店街と地域関係機関との連携による地域活動を行います。

【納屋町商店街】納屋町商店街における子育てサロン、お母さん同士の仲間づくり活動
【深草商店街】深草地域の地域活動や商店街の活性化について話し合うネットワーク「ふかくさしゃべりば」の開催

【向島ショッピングセンター内 M.J】中学生の学習支援を通じた居場所づくり

【パセオダイゴロー】認知症サポーター養成講座 などを開催しています。



参加者からは、頻繁に商店街を利用することで、商店街への愛着が生まれるとともに、新たな仲間と活動することで、これまでになかったアイデアも生まれると意見がありました。



災害時における無線連絡体制の構築

《久我自治連合会》

連絡先 電話 075-921-3278 メール shirou.k@kyoto.email.ne.jp

平成25年9月に京都を直撃した台風18号豪雨による桂川堤防の越水時に携帯電話が不通になり、自治連合会として加盟する自主防災会や水防団、消防団、女性会、民生児童委員会との交信が不能になったのを機に、「災害時における無線連絡体制」の構築を目指し、6台のデジタル無線機購入支援を受けました。防災訓練などで使い方の練習をしながら、いざ本番に備えての訓練をしています。たとえば、水防団の土嚢積みでは、無線機を使って女性会に炊き出し要請をし、団員にお茶やおにぎりを届けます。非常用のサイレンがなく、心細かったのですが、無線機の導入で6団体間の連携は密になりました。



洪水で桂川堤防が越水すれば久我地域は「陸の孤島」になります。久我自治連合会組織として心配していましたが、もう大丈夫。それぞれの役割が整理でき、すこしは安心して対応できます。



防災訓練の様子
(27.10.24)



みどりのまちづくりプロジェクト

《桃山プロジェクト》

連絡先 電話 075-777-7713 メール momopro243@gmail.com

南部児童公園と両替町公園において、月2回の定例清掃・草刈り・落ち葉はき・花壇づくりなどを行い、花や実、紅葉やどんぐりなど、季節により変わる草木の表情を楽しみながら、参加者同士で交流しました。京都市都市緑化協会が主催する園芸講習（春・秋）にメンバーが通い、花壇管理のノウハウを学びました。11月には桃山の歴史と地域一斉清掃のイベントを実施しました。



桃山プロジェクトのメンバーとの出会いを通じて、これまで知らなかったたくさんの人たちと知り合いになれ、世界が広がりました。花壇講習がとても楽しいです。



おやこでアートを楽しもう

《i.m.a》

連絡先 メール atelier.oheso@gmail.com

芸術表現を通じて未来ある子ども達の豊かな感性や探究心、創造力を育むことと、家族間の交流や地域活動への参加を促進するため、また、子どもの居場所作りを目的に絵画造形教室を実施しました。お母さんの時間、子どもの時間の両方を有意義に過ごしてもらえるよう、学校が終わって夕食までの時間に行いました。7月には伏見大手筋商店街で行われる〈夏の夜市〉に出店し、身近な素材である竹を使い風鈴作りのワークショップを行いました。



継続して続けることにより、度々来てくださる親子も増えたので、子どもの成長と一緒に考え、見守る事が出来ることを嬉しく思います。



3. 採択団体の取組紹介 (1) 一般枠

日本初、天体観望会の地「黄華堂」再発見プロジェクト

◀「黄華堂」再発見プロジェクト実行委員会▶

連絡先 電話 075-634-8113 (担当: 国分) メール info@npo-kakehashi.org

伏見稲荷の門前町として、また伏見城の城下町として昔から大いに栄え、交通の要所として多くの人々が行きかかってきた経緯から、伏見にはさまざまな歴史的文化的資源が存在します。しかし、中には地域に埋もれたまま、忘れ去られようとしているものもいくつか存在します。

そこで、そのなかのひとつ、日本初の天体観望会が開催されたという「黄華堂」及びそのオーナーである橋の足跡を地域住民とともにたどり、改めてその功績の今日的意義をさぐりました。また今回は、史実調査にとどまることなく、小中高等学校や他の教育機関、商店街なども巻き込んだ新たな地域コミュニティ形成で地域の文化力を高めることが目標であり、一連の事業を通じて、それらの協働先も探しながら展開していきました。



老若男女の皆さんにご参加頂き、埋もれた伏見の文化を再発見出来たと思います。ぜひ、この活動を継続して欲しいとの声も頂き、持続可能な活動にしたいと考えています。



あなたの居場所「スカサ」 ◀特定非営利活動法人ちいろば▶

連絡先 電話 075-644-5894 メール npo.chiiroba@palette.plala.or.jp

「世間話で救える命」という新聞記事を見て、『地域でふれあいの居場所を！』の夢を持って、活動をはじめました。「制度のはざままでSOSを出せない人」を住民が支えていくことが大切です。赤ちゃんからお年寄りまで、誰もが気軽に集える居場所として、様々な取り組みを実施しています。『健康ランチ』、

『歌声喫茶』、『はがき絵教室』、『気功』、『手話サークル』、『音楽を楽しむ会』、『だべろう会』、『食事指導』、『体操』、『認知症について学び合い支える人達の交流会』等を定期的にも実施しています。



認知症について学び合い支える人達の交流会（「ちえのわ」という名称で毎月開催。）第11回は東前先生より認知症について学びました。笑顔を絶やさず互いに支え学び合います。



墨染地域活性化活動

《墨染活性委員会》

連絡先 電話 075-642-4566 メール sumizome@r-momoyama.jp (担当: 植道)

春には、地元墨染寺にて桜祭を開催し（地元小中学校ほか地域の人々の参加、抹茶席、屋台）、秋には、さつまいも収穫祭、絵手紙での年賀状作り、消防署による救命講習を実施しました。

また1年を通して、高齢者を対象にピアノ伴奏による童謡唱歌のつどいを開催したほか、12月には豊田一成教授をお招きして、地元欣浄寺本堂にてメンタルセミナー“なりたい自分になる為の心の訓練法”を開催しました。



2006年から、地元墨染地域の活性化のため、地域人々が集い、心身ともに元気になることを目指し、有志で団体を立ち上げ、活動を進めています。



川魚食文化の再興を通じた新しい飲食文化の提案

《川魚文化再興プロジェクトチーム》

連絡先 電話 090-5415-7406 メール seikagakuken@hotmail.com

伏見は桂川、鴨川、宇治川の三河川に囲まれた水の都。清水があり、酒があり、川魚がいて食の文化がありました。魚はかつて「酒菜」と記され、酒と共にありました。豊かな環境が育む観光文化都市「伏見」を、川魚文化の再興から推進します。



伝統的な川魚料理を5種類用意して、もちろん伏見のお酒をいただきながら、お酒とのマッチングを聞いてみました。第一位は鮎の甘露煮でした。



3. 採択団体の取組紹介 (1) 一般枠 (2) 小規模枠

まちのきょういく委員会

《父活プロジェクト》

連絡先 電話 080-3150-8188 メール info.chichikatu@gmail.com

「きょういく」に関する事例等を調べ、まちをもっと面白く、そして子どもと大人がともに育つ関係や環境づくりである「きょういく」のレシピを考え、発信、そして実際に取り組んでいます。今年は、アンケートやヒアリング結果から「プレイパーク」と「子ども食堂」に取り組みました。

3つの方針（そうぞう的、じそく可能、ろんりの的）があることで、より論点を明確にした議論ができました。



ある資源と自分たちでできることをどう組み合わせしていくのが、重要なポイントでした。また、地域内外からの協力者との連携関係を構築することができました。



★だいすきっ！京都。寄付金の御案内★

わがまち「伏見区」を応援してください！！



京都市では、全国の京都ファンの方、京都市民の方の思いを、形ある施策として実現するために、「だいすきっ！京都。寄付金」（ふるさと納税寄付金）を設けています。寄付をいただいた場合、個人住民税等において優遇措置を受けることができます。

伏見区に寄付いただける場合は、寄付申出書の応援メニュー欄に、「文化・景観・環境・地域振興（伏見区）」と記載してください。
詳しくは、リーフレット、ホームページを御覧ください。

だいすきっ！京都

検索



子どものこころを育む読書活動の推進

◀コミュニティプラザ深草図書館運営委員会▶

連絡先 電話 075-645-3383 メール fukakusa@pj9.so-net.ne.jp

子どものこころを育む読書活動の一環としての深草図書館ボランティアさんによる事業「お楽しみ会」や「ベビーバンブークラブ」の内容の充実を図るために「大型紙芝居」と「布絵本」を制作しました。「大型紙芝居」の制作を京都教育大学の学生さんに、また「布絵本」の制作は深草図書館ボランティアさんを中心に当館の利用者の方々にもご協力をお願いしました。出来上がった作品の内「大型紙芝居」は12月19日開催の「クリスマスお楽しみ会」で、「布絵本」は1月9日開催の「ベビーバンブークラブ」で初活用しました。



大型紙芝居、布絵本とも大変すばらしい作品を作っていただきました。「クリスマスお楽しみ会」や「ベビーバンブークラブ」に参加された方々からは大変ご好評をいただきました。



伏見環境創造プロジェクト

◀龍大・伏見環境創造プロジェクトチーム▶

連絡先 電話 075-465-7373 メール hidekita@mvc.biglobe.ne.jp

大学周辺の環境問題を取り上げるため、区役所や周辺の商店街のみなさんにヒアリングを行ったところ、伏見稲荷大社への外国人観光客が急増し、ゴミやトイシ、騒音、マナーなど周辺環境の悪化が問題になっていることがわかりました。また、伏見稲荷大社は、人と自然が共に生きていることを表す神聖な場であることも知りました。そこで、外国人にもわかりやすい観光マナーとお参りの作法を示したパンフレットと動画を作成することにしました。また、12月に伏見区のパルスプラザで開催された京都環境フェスティバル2015に出展し、パンフレットの配布とともにパネル展示やクイズを実施しました。2日間で約500名の方がブースに来られ、「とてもわかりやすい」、「知らないことがたくさんわかった」といった感想や意見をいただきました。今後は4か国語に訳したものを作成できればと考えています。



周辺の商店街の皆さんや伏見稲荷大社の方にいろいろとお話を伺うことができ、立場によって課題のとらえ方が違うことや啓発の大切さを知ることができました。



3. 採択団体の取組紹介 (2) 小規模枠

高齢者施設を訪問し、朗読、読み聞かせを通して、笑顔のふれあい活動 《お話の会 すずらん倶楽部》

連絡先 電話 090-9888-2644



人と人との温かいふれあいや繋がりを感じ、伏見での楽しい暮らしを支えることを目指しています。健康な方、リハビリ中の方、認知症の方等の集われる場に訪問しています。昔懐かしい紙芝居や本の読み聞かせ、参加者による音読やフィットネスで頭と体のリフレッシュ。クリスマス会等の催しもあります。

伏見の地で始めて8年、訪問回数560回。

これから高齢者の笑顔で街があふれるように、本を携えて自転車に乗ってどこでも走って行きます。



「楽しみにしているよ。」と、回を重ねるごとに、親しみを持っていただけ、うれしいお声かけや笑顔を頂いております。集われた方々の会話が弾みます。



災害緊急避難サポート隊活動 《西寺町中部中町内会》

連絡先 電話 075-645-8320 (避難サポート隊事務局)

本町内も住民の高齢化が進み、地震等の大災害による避難勧告等が発令された時に、速やかな集団避難行動ができる体制づくりが焦眉の課題でした。そこで、昨年4月役員会で避難サポート隊員を募集し、5月に発足集会を立ち上げ、自力避難困難者(要サポート者)の名簿づくりや、誘導シフト体制を確立しました。

また、避難所(京都教育大学)への近道になる避難扉の設置促進と、避難経路の整備や清掃点検に取り組みました。暑い中、避難路の整備作業に取り組んだ甲斐あって、秋の避難訓練では60名を上回る住民が新設された非常口を活用しました。



サポート隊ができて住民に安心感や防災意識の高まりと住民間の結束力の広がりが見られたことがよかったです。避難扉設置では自治連や教育大、深草支所に変にお世話になりました。



五感でごはん ～親子で体験 食育プロジェクト～

《五感でごはん実行委員会》

連絡先 メール gokandegohan@gmail.com

近年、子どもたちの食生活の偏りや、箸の使い方といった食に対する基礎知識の不足などの問題から、食育の必要性が見直されています。五感でごはんでは、主に市民農園風緑での収穫体験を通して、「旬を味わう」ことを体験してもらっています。旬で新鮮な野菜を食べることで、子どもたちが自分で食べ物を選ぶ力を身に付けるとともに、野菜の育ち方を学ぶことができます。

収穫体験の他にも、調理体験や工作体験など、子どもたちが自然の中で五感を使えるようなアクティビティを毎回提供しています。



市民農園風緑の野菜を使わせていただき、学生がイベント内容を発案し実施しています。学生にとっても、地域との連携を深めながら、地域の中での自分の役割を考える機会となっています。



収穫体験

工作体験で製作した竹細工を使ったのミニランチ



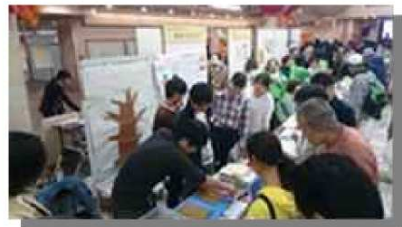
ヨシを活用して、伏見の特産品を創ろう！ 《龍谷ODEN》

連絡先 電話 075-645-8411 メール jinhongshi@policy.ryukoku.ac.jp

伏見で環境保全活動を行っている地域の住民グループと一緒に、伏見のヨシ原の保全活動や淀水路の浄化＆景観保全活動を行っている学生団体です。今年は、伏見ふれあいプラザや京都地域カアップ応援フェア in ゼスト、京エコロジーセンターで行われた「発見！体験！生き物の環！」、京都環境フェスティバル 2015 年に出席し、紙漉きの体験を行ったり、生物多様性の環境教育のイベントを行ったりして、伏見の身近な自然の大切さを伝えています。



どのイベントもたくさんの市民の方々が紙漉きのコーナーに立ち寄ってくださいました。ヨシ原やヨシを初めて知った方々にも楽しく参加していただくことができました。



3. 採択団体の取組紹介 (2) 小規模枠

淀本町商店街 七夕まつり <淀本町商店街イベント実行委員会>

連絡先 電話 080-5321-8809 メール yodohonmachipj@gmail.com

京阪淀駅移転により人の動線が大きく変化し、淀本町商店街への客数が減少しています。

また、京都競馬場の客の取り込みも前記の動線の変更に伴い、土日も閑散な状況となっています。

この状態を打破するため、7月5日に七夕イベントを実施し、各店舗の周知を行い、淀駅周辺の活性化を目指しました。



通りがかるたびに寂しいと感じていた商店街、今回の活性化事業は商店街の魅力を引き出せたと思います。今後も区民活動を通じて人が集う商店街を目指します。



親子で見て、知って楽しもう、伏見のヨシ <伏見楽舎>

連絡先 電話 075-611-4714 メール info@fushimigakusha.org

宇治川観月橋南堤防西側沿いに自生しているヨシの自然環境の保全と活用をテーマに活動しています。毎年7月下旬から8月中旬にかけて、ツバメがフィリピン方面へ渡りをするため、ヨシ原群に作られた「ねぐら」入りの観察会や、ヨシを活用としたヨシ灯り展の第一弾として、大学生と作成したヨシ灯り展用オブジェ行燈30基を堤防沿いへ陳列し、幽玄の世界を演出しました。

近い将来、観光規模のヨシ灯り展ができればと取り組んでいきます。



ツバメのねぐら入りでは自然界の営みの素晴らしさを、ヨシ灯り展ではヨシの活用の在り方を子ども達に伝えることができました。



地域力で行うロコモ予防《伏見ロコモ予防クラブ》

連絡先 電話 075-631-1215 (矢野)

これから迎える超高齢化時代に、この地域に住んでいる人々が、いかに健康で、元気なコミュニティーを築き、維持していくかが課題です。そのため、**「健康年齢と平均寿命」の合致を目指しています**

活動内容は、毎月インストラクターの指導による水中ウォーキング・春と秋にボールウォーキングを実施しています。このように地域の皆様の交流の場や健康増進活動の場を作ることにより、地域の活性化に取り組んでいます。



毎回の水中ウォーキングやボールウォーキングを楽しみにしているという皆様の声をたくさん頂き、地域の皆様の健康に対する関心の高さを実感することが出来ました。



活いきお出かけ応援プロジェクト《活いきお出かけ応援プロジェクト》

連絡先 携帯 090-3628-9970 (勝部)

当団体では、深草地域を中心とした地域にお住まいの、外出したくてもできない高齢の方々を対象に「お出かけ」のお手伝いをしました。

まず、10月7日に深草小学校で「応援スタッフ学習会」(15名参加)を実施し、地域の高齢者の状況や車椅子の実習を学んだ上で、①10月10日～12月10日②2月10日～3月10日と「お出かけ」を実施しました。

「ゆっくりと散歩付添い」「喫茶店でお茶」「娘さんと一緒に通院」「100円商店街で車椅子体験」等、スタッフや地域の方々と連携ができ、楽しい体験をしました。



高齢の方といろいろの「お出かけ」を実施する中で、外出することが元気な力と生活意欲を引き出すことを実感しました。また、地域の中でお手伝いできる元気なシニア、学生、若い人々等、仲間がいれば、いろいろな可能性が広がるかな？



3. 採択団体の取組紹介 (2) 小規模枠

町家 de 交龍<特定非営利活動法人 深草・龍谷町家コミュニティ>

連絡先 電話 075-644-7760

町家という空間を活用して、地域の方にも気軽に参加していただけるイベントを開催することで地域間、世代間交流を促進し、情報共有や意見交換による地域課題の発見や活性化に向けた連携体制の構築を目的に、年3回の交流(交龍)イベントを企画しました。

「夕涼み de 交龍」(8月29日)、「御月見 de 交龍」(10月28日)、「餅つき de 交龍」(1月30日)を開催しました。

「御月見 de 交龍」では、学生、留学生、地域住民など25名が参加し、講師より日本文化や風習について学び、参加者で月見団子を作り、食しながら多世代間交流を行いました。



近年では、あまり馴染みのない文化を見つめ直す機会になったのと同時に地域間交流も行えました！



地域の作品展～趣味を通じて仲間づくり～<<醍醐石田団地自治会>>

連絡先 電話 090-3624-3387 メール e-tanabe0206@ezweb.ne.jp

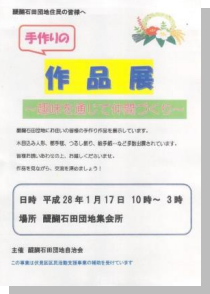
醍醐石田団地自治会では、今回初めて、住民同志の交流、特に高齢の一人暮らしの方々の出会いのきっかけ作りや、自治会活動の活性化を目指して、住民の皆様から、自分の得意とする絵画、書道、手芸等の作品を出展していただく「趣味の作品展」を開催しました。

当日は、皆様のご協力により、100点以上の作品が出展され、多くの方にお越しいただき、会場は大いに賑わいました。



同じ趣味をきっかけに、出展者同志の会話が盛り上がっていました。

参加者の笑顔が広がることを楽しみに、次回も頑張っ
て企画します！！



MEMO

【本事例集に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室企画担当 (電話 6 1 1 - 1 2 9 5)

【伏見区区民活動支援事業に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話 6 1 1 - 1 1 4 4)

深草支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話 6 4 2 - 3 2 0 3)

醍醐支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話 5 7 1 - 6 1 3 5)



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！



平成 28 年 3 月発行

伏見区役所地域力推進室

京都市印刷物第273217号